桐生市議会　令和6年度　公明クラブ　政務活動費　視察研修会等　報告書

（1）　日　時：　1、令和6年6月25日(火)　9時30分　～　11時。

（2）　視察先：　1、　学校法人角川ドワンゴ学園・N 高等学校
〒904-2421 沖縄県うるま市与那城伊計224

（4）　参加者：　丹羽孝志、山之内肇

◎視察の目的

学校法人ドワンゴ学園・R高等学校が本市・(群馬県桐生市)に開校するにあたり、本市にもたらされる経済効果をはじめとする地域社会への影響はどの様なものになるのかを、すでに開校となっているN高等学校とS高等学校を視察する事により、それらを考察としていくことを目的とする。

◎視察概要

学校法人　角川ドワンゴ学園について
N・S 高等学校　校長補佐　椛田昴大　様
N 高等学校　副校長　　五十嵐光　様

今回視察した学校法人角川ドワンゴ学園は学校法人としての歴史は浅く、2016 年 4 月に 1 校目の N 高等学校（沖縄県うるま市）が開校となり 2021 年 4 月に 2 校目の S 高等学校（茨城県つくば市）が開校になりました。そして3校目として R 高等学校（群馬県桐生市）が 2025 年 4 月に開校する予定になっており、学校法人としてはまだ 8 年の年月しか経っておりませんが、在籍生徒数は 2016 年の開校当初の 1570 名から、現在の 2024 年時点において 28,942 名の生徒数と、日を追うごとに増えているということです。
また、そうした学校法人角川ドワンゴ学園はインターネットと通信制高校の制度を生かしたネット高校となっており、学業形態としては高校卒業資格の取得に必要な学習（ネット学習・スクーリング・テスト）が共通として行われます。ネット授業が中心なので通学日数はスクーリングやテストを含め年 5 日程度だということで、そのほか独自の課外授業をプラスできるコース（通学コース・オンライン通学コース・通学プログラミングコース・個別指導コース）を揃えており、生徒の 1 日の行動例を見ると午前中にネットにて効率的に必修授業を行い、午後からは自分がやりたい課外授業に多くの時間をついやすというスケジューリングになっているということです。このように今回の視察により、学園の歴史についてと学業形態についてご教授をいただき、今後の本市・R 校（群馬県桐生市）にどのような学園が開学するのかという事が理解することが出来ました。

◎視察内容

まず、椛田校長補佐よりN高等学校に関する概要のレクチャーを受け、五十嵐副校長共々に校舎内を案内して頂きましたが、内容として印象に残ったものとしましては、学生数の推移の話で、開校当時の2016年5月の生徒数は1570名で、現在の2024年4月の生徒数は約28,942名(N高等学校約17,000名、S高等学校約11,000名)となっており、年々生徒数が増えているというお話でした。

また、高校卒業資格取得のための必須授業として、スクーリングというものがあり、これは2年次において必ず本校(N·S·R高等学校)に4～5日程度来学して本校スクーリングに参加しなければならないこととされておりますが、生徒数が増えれば、当然スクーリング参加数が増えていくということであり、多くの生徒が来校するということであります。

そして、N高等学校に関しては、1日約200名がスクーリングに来校する。これが35週に渡って繰り返され、N高等学校では、1年間に約5000名がスクーリングに参加するとの事。沖縄県では4泊5日の宿泊日数で、宿泊場所は沖縄市恩納村と言う場所であり、宿泊に関しては宿泊指導も兼ねているので、4名で1グループ。集団が苦手な生徒は自分で宿泊先を手配している。また、家族で来るという人もいるということです。

スクーリングではワークショップといった体験学習プログラムというものがあり、生徒は職業体験でその

地域での産業の現場を知りそこで働く大人たちとのコミュニケーションを取ることで社会課題を身近に考えることになります。また、伝統工芸の染色技法や歴史学習やビーチイベントなどを学び、その地域でしか味わえない時間を過ごし思い出を刻む事になるとの紹介がなされておりました。

◎質疑応答Q &A

Q1:ドワンゴ学園はネット学習が主であるが、実際にリアルに学校に来る生徒は何人いるのか?

A1:通学コースでは全国にキャンパスがあり、約6000名が通っている。
本校・N高等学校で行われるスクーリングに関しては、5日間のスクーリングが年間35週、ほぼ毎週行なわれ、昨年度では年間5000名が沖縄に来ている。生徒数が増えていくとマックスで5000名から6000名が来ると考えている。

Q2：沖縄本校までの交通機関はどのようになっているのか？

A2：空港からは観光バスで本校まで送迎している。

Q3：学費はどのくらいかかるのか？

A3：年収 5,900,000 円位の家庭で、年間 250,000 円だが、支援制度があり、実費は 80,000 円位である。

Q4：学校法人ドワンゴ学園の地域社会に対して考えていることは？また、地域に対する要望は？
※ 建学まもない学園として、どのような人材を排出し、どのように地域社会への貢献を考えているのか？

A4：1回に200名の生徒がスクーリングに来校するが、宿泊施設の確保は大きな課題となっている。なお、現在の宿泊場所は沖縄市恩納村と言う場所で、宿泊場所は民間の宿泊場を使用していくと考えている。また、食事に関しては、基本的には地元で食事を取ることを考えており、地元の自治会を介して地元の業者にお願いしている。

◎所感及び当局への要望

今回、学校法人ドワンゴ学園が桐生市のR高等学校として開校した事によるその地域での経済効果はどのようになるのかを、4項目の雛形に沿って考察してみようと試みました。

まず、１、教職員、学生の消費。(食事の消費・宿泊場所)は？

また、２、学園の管理運営に係る消費（設備・研究・課外授業・部活動などの費用）は？

また、３、学園が所在することにより発生する交流・関係人口の消費は？

また、４、教育研究活動に係る消費（学園との連携に基づく研究成果の事業化により民間企業が得る売上“直接効果”と、それが地域経済に与える波及効果“間接効果”）は？

そうした4項目内容の質問を試みる中でできる限りの項目を把握したいと思う中、1項目の教職員や学生の消費の実態及び、3項目の交流人口増加に伴う今後の関係人口消費への可能性が見えた状況でした。

1項目の教職員、学生の消費の実態に関しましては、民間の宿泊所、地元地域での消費という、これまで示した通りで、3項目の交流人口の拡大に対しては、生徒が本市においてかけがえのない体験を持たせる事が鍵となっていると考え、学園側としては、桐生市において体験学習プログラムとして何が良いのかを様々と思案中で、藍染や織物･繊維関係の体験学習ができるのではないかと話されており、また八木節の文化、そうした体験をした生徒は桐生市に愛着を持っていくという事で、ゆくゆくは関係人口の拡大に繋がっていくと考えられると話されておりました。

当局におかれましては、スクーリング（１日約200名・35週にわたる）における宿泊施設や地元消費における食材確保などへの対策、また学生のまちとしての学園・生徒ファースのまちとして、様々とスクーリング参加生徒の思い出が築けるような、地元でなくては知り得ないスポットなどの紹介などして頂けたらと考えます。

以上